

第1回いばらき自転車活用推進委員会の議事要旨

- 1 日時 令和3年8月4日(水)10:00~12:00
- 2 会場 茨城県庁12階県民生活環境部議室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり
- 4 結果
 - ・国の第2次自転車活用推進計画の内容、現在のいばらき自転車活用推進計画を踏まえた茨城県における自転車に関わる現状及び施策の取組状況を説明し、次期計画に向けた課題及び計画の方向性について議論した。
 - ・主な意見等については以下のとおり。

○全体的な課題と方向性について

- ・【本村委員】 目指すビジョンをビジュアルで表現できるとよい。ビジュアルがあると議論が具体的になる。パブリックコメントでも意見を求めやすい。
- ・【平田委員】 県民にアピールするには、ビジュアルがあるとよい。新たな取り組みかもしれないが、ぜひチャレンジして欲しい。
- ・【平田委員】 目標は変わらなくてよいが、課題はビジョンにつながる一步手前の前向きな課題が書かれるべき。場当たりに思いついた課題が置いてある感じだと共感が生まれにくい。
- ・【絹代委員】 今後実施する自転車利用実態を調べるアンケートは、自転車に乗る方だけでなく、県民の方から自転車がどう見えているかを聞く必要がある。つくば霞ヶ浦りんりんロードで自転車が認知されてきて、県民の感覚がどう変わっているのかを知ると、よりウエルカムな地域に近づく。
- ・【室谷委員】 他の自転車活用推進地域でも、地元の人が自転車ウエルカムにならないと自転車文化は醸成されないと言います。普段の暮らしの中で車から脱却した自転車の活用をぜひ進めていただきたい。
- ・【平田委員】 基本計画は5年であるが、長期的な視点が重要。10年後、20年後の自転車を活用した県の姿、まちの姿、ライフスタイルの姿を想像しながら、この先5年間の計画をうまく作れると良い。
- ・【平田委員】 そのほか、これまで実施したアピールできる部分については漏れなく計画に入れていくとよい。現行計画策定後、県が実施してきたことを知らない県民も多くいるはず。

サイクルツーリズムの推進について

(茨城県の現状、課題について)

- ・【宮内委員】 課題としている消費金額を増やすには、滞在性と周遊性を高めることが必要。そのた

めにはルートの距離を伸ばすことが有効。距離を伸ばすこと。つくば霞ヶ浦りんりんロードに隣接する北浦一周を組み込めば、距離が伸び、宿泊が増え必然的に消費額が増える。

- ・【宮内委員】 第2次ナショナルルートに指定された太平洋岸自転車道（千葉県銚子市～和歌山県和歌山市加太岬）とつくば霞ヶ浦りんりんロードは利根川沿いにアクセス路を設定してネットワーク化すべき。これによって利用者の相互往来が望める。もう一つはプチグルメ。サイクリング初心者層とレジャー層は走行だけでは満足しない。これらの層に向け、飲食を楽しめる場所など魅力的な立ち寄り場所を増やすことが必要。
- ・【中島委員】 サイクリストは1人の像で語るのではなく、セグメンテーションごとに細かく見ていくことが大事。消費単価は宿泊に紐付くことが多いが、層によってどういった体験があれば宿泊してくれるか分かれてくる。モデルパターンを県の方で整理し、共有可能なレベルで各事業者や自治体に提供していくのが良い。
- ・【中島委員】 サイクリスト側だけの分析ではなく、お店や宿がどう感じているか、何が障壁になって、それを改善すればもっとお金を使ってもらえるようになることが明らかになれば、サイクリスト側とお金を使ってもらう側のマッチングができてくる。
- ・【絹代委員】 今後実施する自転車利用実態を調べるアンケートを行う際、どんなことがあれば宿泊をしてゆったり楽しもうと思うのか、お子さんを連れてこようと思うのか、一步踏み込んだ質問項目があっても良い。
- ・【絹代委員】 ビワイチプラスのように、ルートを少し外れてでもゆっくりと時間を使って楽しめる楽しみ方の提案、楽しみ方の環境整備にも目を向けられると良い。
- ・【平田委員】 サイクリストだけでなく、地元の人も含めた楽しみ方、サポートライダーの育成も含めて検討を進めてもらいたい。

（サイクルツーリズムに関して収集しているデータについて）

- ・【室谷委員】 様々な目的で取られたアンケートデータが、計画に活かすための分析データになっていない。データをどのように活用するのか、計画に沿って戦略を立てて調査すべきではないか？これまでのアンケート調査はサイクルツーリズムに偏ったデータになっている。
- ・【中島委員】 わかりやすくパッケージ化したものを公開しては。
- ・【平田委員】 問題がなければ、誰でも使える生データでの公開など。
- ・【本村委員】 今後もクロス集計で積極的に効果が示せるよう、より戦略的にデータの使い方ができるとよい。
- ・【平田委員】 次期計画に向け、施策、仮説、戦略にあったデータの取り方を今から準備することは重要。また、データによる基づく仮説の検証も必要。
- ・【中島委員】 まず現在のデータについては、委員の皆様には共有した方がよい。

（現在のルートについて）

- ・【川崎委員】 霞ヶ浦1周サイクリング大会を主催しているが、北利根橋だけが危ない。国道であり県の管理ではないが、そこがちゃんとした道になれば、より楽しい道になる。

- ・【宮内委員】 国では、先進的なサイクリング環境の整備を目指すサイクルツーリズムの推進モデルルート認定している。現在63ルートあるうち、茨城県で認定されているのは、つくば霞ヶ浦りんりんロードのみ。他の県モデルルートも整備が進んでいるのであれば、国のモデルルート認定を目指すべき。なお、国の第2次自転車活用推進計画の指標として、令和7年度までにモデルルートを100ルート増やすとしている。

(国の第2次自転車活用推進計画の反映について)

(マウンテンバイクのコース整備や森林の保全管理等の推進)

- ・【宮内委員】 高峰山 MTB プラス、ザ・ヒロサワシティマウンテンバイクオフロードコース、常陸太田市ふるさと森マウンテンバイクコースの県内既設3コースに加え、茨城県も本格的なマウンテンバイクコース併設のキャンプ場「かすみがうらドッグ&MTBパーク」が5月に開設。全国でも有数の取り組み実績なので、それを積極的に発信していくべき。
- ・【絹代委員】 マウンテンバイクのコース整備を進める際は、地域の方々としっかりと相談しながらトラブルが起きないように配慮も同時に行う必要がある。

自転車通行空間の整備について

(整備状況について)

- ・【平田委員】 全国的に車道混在が延びている状況。既存の道路の空間再配分は厳しいが、新しい道路については条例の改正で自転車通行空間が生まれてくる。不連続ではあるが、長期的に自転車通行空間を増やしていくことは重要。
- ・【平田委員】 自転車が快適に走る空間が一番重要なインフラ。長期を見据えた戦略的な整備が望まれる。

(市町村の自転車推進計画について)

- ・【平田委員】 茨城県は全国的に見ても、市町村の自転車推進計画の策定数が多い。茨城と言えば自転車というアピールがこれまで出来てきた成果の表れである。

自転車事故のない安全安心な社会

(安全教育について)

- ・【絹代委員】 今まで行われてきた学校教育の中の自転車教室の効果が出ておらず、大人が自転車の交通ルールを理解していない状況。高齢者や子どもを対象に自転車大会が行われているが、かなり現実に即していない種類のイベントである。スケアードストレートの効果は、世界的に研究課題になっている。以上の状況であるので、今後は内容を練った結果が出る啓発、ルールの周知を是非実施して欲しい。
- ・【絹代委員】 ドライバーの方も巻き込んだ、自転車の安全利用、安全に走れる環境作り、歩行者との共存について一層力を入れて欲しい。
- ・【平田委員】 是非、安全教育の中身について、次回委員会資料には盛り込んでもらいたい。

(自転車保険加入について)

- ・【宮内委員】 茨城県交通安全条例で、自転車保険の加入が努力義務になっているが、加入義務にすべきでは。努力義務のままであっても、国の第2次自転車活用推進計画の指標では、令和7年度までに自転車保険の加入率を75%にするとなっているので、いろいろな施策でこの指標の達成を目指していただきたい。

(国の第2次自転車活用推進計画の反映について)

(身体に合った多様な自転車の開発・普及の推進)

- ・【絹代委員】 障がいのある方や高齢者でも自転車を楽しめる環境作り、自転車の開発が加わっている。茨城県の計画でも、今後を見据えた駐輪場の開発や環境づくりが加えられると良い。
- ・【平田委員】 茨城県は、先見の明があって、つくば霞ヶ浦りんりんロードを自転車道として整備してきた面もあるので、多様な自転車が開発された際のインフラも先取りして作っておくのも、茨城県としてやりやすいのでは。

自転車を活用した健康増進

(取組のやり方について)

- ・【室谷委員】 健康増進は、イベントを実施したり、チラシをまいただけでは普及にならない。地元の企業を巻き込むような健康増進の仕組み、モデルを作る必要がある。1企業でもいいので、車通勤から自転車通勤になって健康になった、というデータを取り、横展開する仕掛けが必要。
- ・【平田委員】 健康になったというエビデンスは取りづらいと思うが、データをいかに戦略的に取るか、サンプリングでもいい。
- ・【川崎委員】 茨城県の健康アプリからもデータが取れるのではないか。

今後の進め方について

- ・【平田委員】 今後実施する自転車利用実態を調べるアンケート項目は重要なので、実施する前に委員の意見を頂いたうえで進めて欲しい。
- ・【平田委員】 次回の委員会(11月頃)の前に、アンケートも含め、関係者、一般県民含め意見交換やヒアリングをして情報を集めて欲しい。途中経過も委員に対しメールで報告し、できるだけ次の委員会の前に、パブリックコメントを行う前に情報を集めるよう努めて欲しい。